



なぎさの体験学習館スタッフおすすめ☆展示ガイド〈生きもの編〉

相模湾の“なぎさ”やその周辺についてお伝えしている展示の中から、今回は生きものたちをご紹介します。

岩場

ごつごつした“岩場”を再現した水槽です。ここでは生きものを触ったり、観察することができ、展示の中でも大人気のスポットです。水槽にはヤドカリやゆ〜っくり動くヒトデにナマコ、岩陰でひっそりと隠れているカニなどがいます。



餌をあげているときに、生きものが餌をつかむまで、じっと待つと観察してみると…慌てて餌を挟み隠れるカニや、餌をゆっくりつかむヤドカリなど生きものによって様子はさまざま。食べ方にも個性が現れます。餌の時間を見かけたらじっくり観察してみるのも面白いかもしれません。



なぎさずかん

“なぎさ”でみられる生きものを、12個の水槽にそれぞれ1種類ずつ展示しています。いくつかの水槽ごとに『いろいろな所に隠れる生きもの』などのテーマがあり、比べながら観察することができます。



今回はオススメの“ハナオコゼ”をご紹介します。丸くかわいらしい見た目とは裏腹に、口は大きく、基本的に餌は丸のみです。頭の上に“エスカ”と呼ばれる擬似餌をぶら下げ、生きものをおびき寄せて食べるのですが、今いるハナオコゼは一目散に餌にガブリ! 使い方を忘れてしまったのでしょうかね…。



ひがた 干潟

干潟は、主に河川から流れ出た泥や砂などが堆積し、潮の満ち引きで海になったり陸になったりする場所です。水槽はこの環境を再現して水面の上に泥の丘を作っており、少し大きめのカニなどを中心に飼育しています。



環境を再現しているのは見た目だけでなく、水槽の水も。海水と淡水(真水)を混ぜて汽水にしており、毎日塩分濃度を測って調整しています。今年も採集に行きアシハラガニなどが仲間入りしました。アシハラガニは、泥の丘に穴を開けて隠れていることがあるので、穴があったら覗いてみてね。



も 藻場

海藻や海草の群生を藻場と呼び、稚魚などの隠れ家になるため“海のゆりかご”とも呼ばれます。“海草”は、聞き慣れない言葉かもしれませんが、海で種から育つ植物を指し、その代表格のアマモはこの水槽でも展示をしています。



水槽をよく見ると…アマモが揺らいでいます。実際の海でアマモが波に揺らぐ様子を再現するために水流ポンプを使って水の流れを作っています。アマモにイソギンポがちょこんと乗っていたり、カニがひょっこり顔を出したり…ずっと見ても色々な動きがある水槽です。





淡水 その1 ～水草～

川や池の様子を再現したこの水槽は、なぎさの体験学習館唯一の淡水の水槽です。水槽内に生えている水草には藤沢メダカが身を隠して休んだり、産卵期には卵を産み付けたりと重要な役割があります。



水槽の水草は照明の光で光合成をし、成長しています。昨年植えた時は上の写真のように小さかった水草も1年間で下の写真のようにこんなに成長しました。生きものが水槽の中で元気でいられるように、周辺的环境も整えています。淡水水槽を見る際はぜひ水草にもご注目ください！

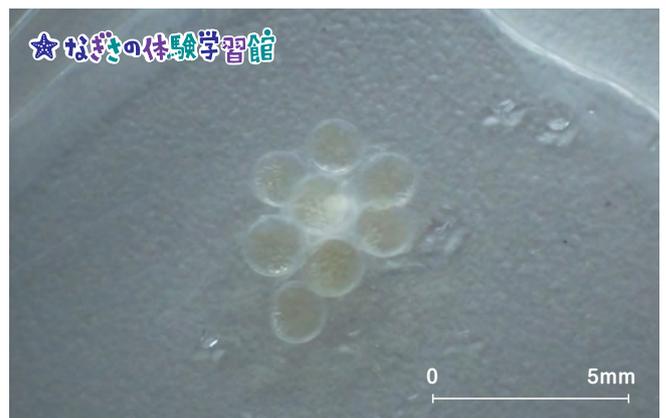


淡水 その2 ～藤沢メダカ～

淡水水槽の“藤沢メダカ”、実は“ミナミメダカ”という種類ですが、地域ごとに遺伝子レベルの違いがあり、境川水系のメダカをこう呼びます。一度は絶滅したと思われていましたが、個人宅の池で再発見されました。



かつてのすみかでメダカが見られるよう目指している『藤沢メダカの学校を作る会』に私たちも協力しています。子孫を増やすために卵を見つけるのは大事な仕事。産んだ卵を放っておくと親メダカが食べてしまう可能性があるため、卵だけ分けて育てます。写真は産卵直後の卵。2週間程で孵化します。



小さな世界

私たちが見ているも見えていない“小さな世界”。この世界を見るには“顕微鏡”がなんとも便利です。展示では、ウニの“足(管足)”や“はさみとげ(叉棘)”などをご紹介します。ウニといえば“とげ”の印象ですが…それだけではないのです。



顕微鏡の一部をお休みして、期間限定で“カニの脱皮殻”をご紹介します。カニは大きくなるために殻を脱ぐのですが、背中中の割れ目から本当に上手に脱ぎます。注目は眼の部分！脱いだ殻の方は透き通っています。よく見ると“複眼”の網目が跡になっていて…ここは顕微鏡の出番かな。



バックヤード

展示している水槽の裏側にはスタッフしか入らないバックヤードがあります。生きものたちの飼育に必要な網やバケツなどの道具や餌、そして、ここにもいくつか水槽があり、これから展示する生きものたちを飼育しています。



ある水槽にはイトマキヒトデがいて、ここから岩場水槽へ移動させて展示しています。なぜ水槽の壁にこんなにたくさん並んでいるかというと…餌をしっかり食べられるよう、スタッフが中央の口付近に餌をつけて、へばりつかせているからです。たくさんの足(管足)で口まで運び、時間をかけて完食します。

